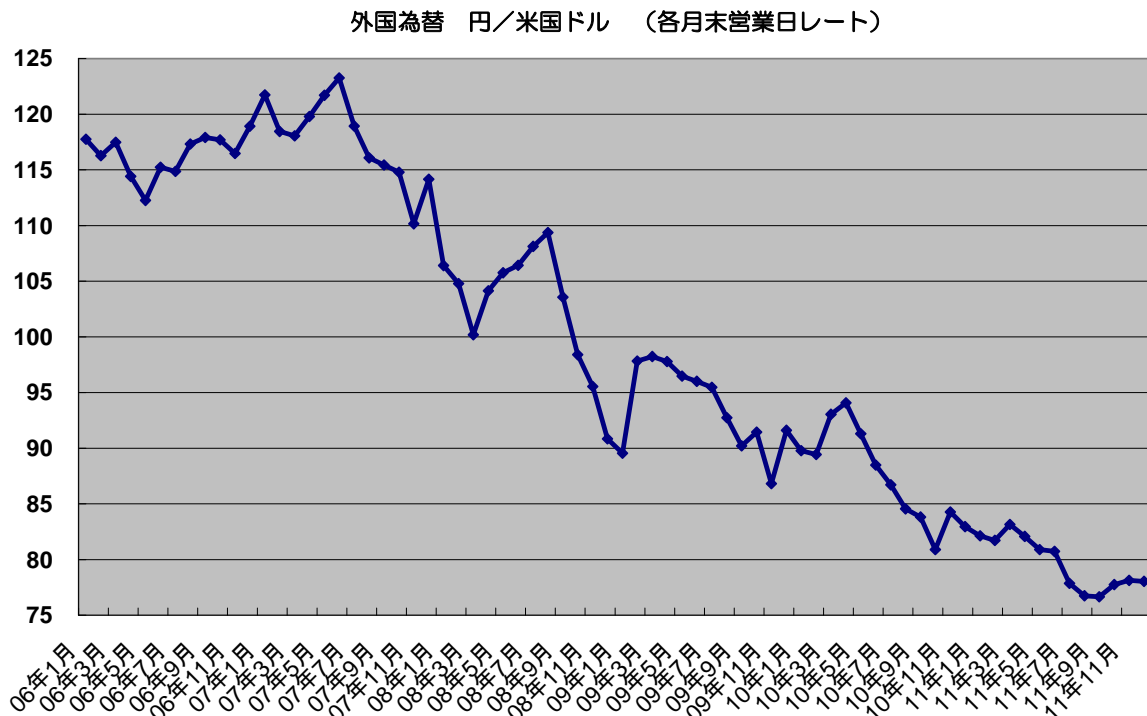


輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

“スピーディーかつ分かりやすい” をモットーに、今年も輸入粗飼料の情勢をお伝えしたいと考えています。ご愛顧のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

外国為替（対米国ドル）の影響



10年産に引続き11年産の北米産乾牧草の産地価格は、アルファルファをはじめとしたいずれの草種も、良品不足や、UAEや中国からの強い引合いが要因で、同時期に穀物や燃料も高騰した08年産と変わらないか、それよりも高い水準で推移しています。豪州産オーツハイについても11年産は未曾有の不作により、米国ドル基準で「史上最高値」だった10年産よりもさらに値上がりし、高騰しています。一方で、外国為替は引続き円高（米国ドル安）水準となっています。昨年（前月）末は78.0円/ドルで終了しました。平成22年9月号（当該前月末は84.6円/ドル）、平成23年1月号（同83.0円/ドル）、9月号（同76.7円/ドル）でも記述した通り、産地価格（ドル建て）は高く推移しているにもかかわらず、円貨にすると、数

年前とあまり変わらない水準で推移しているのは、この円高に支えられているためと言っても間違いではありません。しかしながら、ひとたび円安に向かえば、特にハイグレード品ほど非常に高いものとなり、08年産のように買えない価格帯となる危険が、一昨年から引続き輸入乾牧草には含まれています。輸出している産地だけでなく、輸入している日本側も、このことには十分に注意が必要です。

中東・中国ほか需要動向

2年半ほど前から何度かご案内していますが、09年からUAE（アラブ首長国連邦）向けの米国産アルファルファが驚異的に数量を伸ばして輸出され始め、中国への輸出数量も増え始めています。

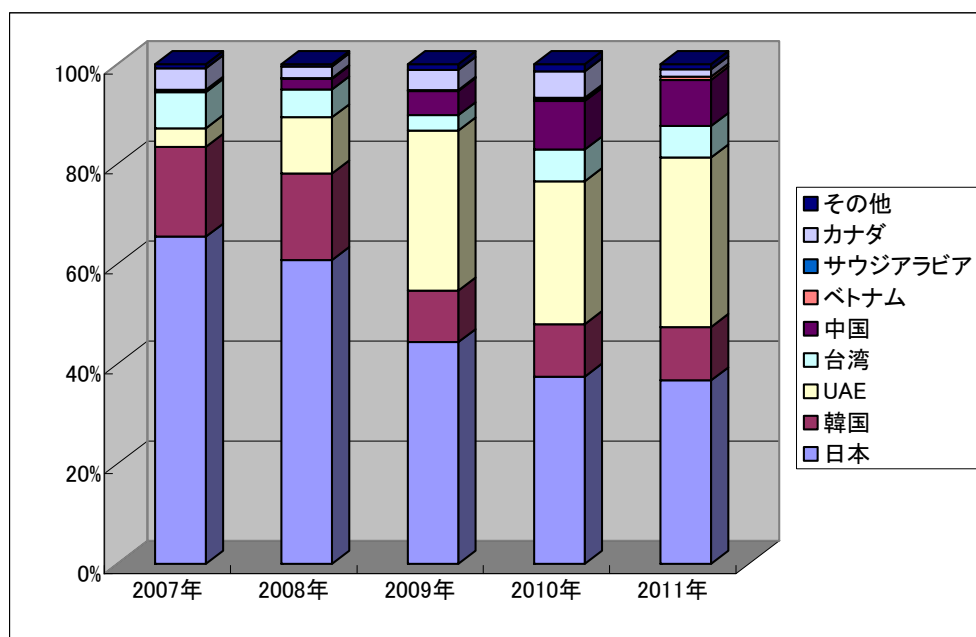
UAEのアルファルファ需要は年間100万トンとも言われており、以前の輸入元は主に欧州（スペイン、イタリアなど）でした。欧州産は‘デハイ’アルファルファ（機械で強制乾燥させたアルファルファ）ですが、その黒めの品質が好まれなくなり、緑色で品質の良い米国産に触手が伸びていると言われていました。09年に入ってから、価格高騰により荷動きが悪くなり、大量に在庫された米国産の08年産アルファルファのサプライヤーと生産農家の在庫が輸出されたことを契機に、同国の輸入元の主力が米国に取って代わることとなり、以降毎年安定した数量のアルファルファが米国から輸出されています。豊富な資金力を背景に、一部サプライヤーへの投資の話も聞かれるようになりました。中国についても、以前は乳価に対して輸入乾牧草の価格が高かったため、あまり引合いがありませんでしたが、経済の発展にともない、また自国で08年に起きたメラミン混入事件の影響から、高品質の牛乳や乳製品の需要が増えており、品質が高いほど牛乳や乳製品の販売価格も高くなっているようで、飼養規模を拡大した大型酪農家向けに米国産アルファルファの引合いが増えています。00年に827万トンだった生乳生産量も、10年には3,032万トンとなっており（資料；中国農業部ほか）、すでに日本の4倍近くの生乳生産量であることも考慮すると、今後もますますアルファルファを中心とした米国産乾牧草の引合いは増え続けると見込まれています。

11年産の米国産アルファルファが高騰しているため、両国とも供給開始当初は少し買い控えているという情報もありましたが、安定した引合い・船積みは続いているようで、積極的に買付けるだけのキャパは十分にあります。また、サウジアラビアやベトナムをはじめ、まだ輸出数量が少ないUAE周辺の中東や東南アジアの各国からも関心は強いようで、引合いが増え始めることが予想されます。さらなる需要の拡大を睨んで、大手サプライヤー・生産農家の多くも、UAEと中国に対してのみならず多くの国に対して、近年積極的に取組む姿勢が顕著に見受けられます。18の国と地域に販売実績があるという大手サプライヤーも実在する現在、産地でのアルファルファを中心とした乾牧草市場は、日本側が想像している以上に大きく変化していると言

えます。様々な業界でも聞かれますが、この市場でも“Japan is No. 1.”から、“Japan was No. 1.”（日本はナンバーワン だった。）となりつつあります。今後の動向には引き続き注意が必要です。

米国産アルファルファ輸出量（MT） 2011年は1-10月

	2007年	シェア%	2008年	シェア%	2009年	シェア%	2010年	シェア%	2011年	シェア%
日本	490,106	65.5	558,538	60.8	686,148	44.4	540,365	37.4	473,803	36.7
韓国	134,489	18.0	159,235	17.3	159,460	10.3	151,613	10.5	137,839	10.7
UAE	27,946	3.7	103,419	11.3	495,432	32.0	412,901	28.6	437,967	33.9
台湾	54,227	7.2	51,248	5.6	47,918	3.1	91,472	6.3	81,467	6.3
中国	2,321	0.3	19,348	2.1	74,985	4.8	140,362	9.7	119,532	9.3
ベトナム	1,117	0.1	1,248	0.1	1,817	0.1	5,738	0.4	8,114	0.6
サウジアラビア			130	0.0	1,329	0.1	3,324	0.2	111	0.0
カナダ	32,183	4.3	21,575	2.3	61,978	4.0	76,664	5.3	18,496	1.4
その他	6,116	0.8	4,142	0.5	17,820	1.2	20,596	1.4	13,737	1.1
合計	748,505		918,883		1,546,887		1,443,035		1,291,066	



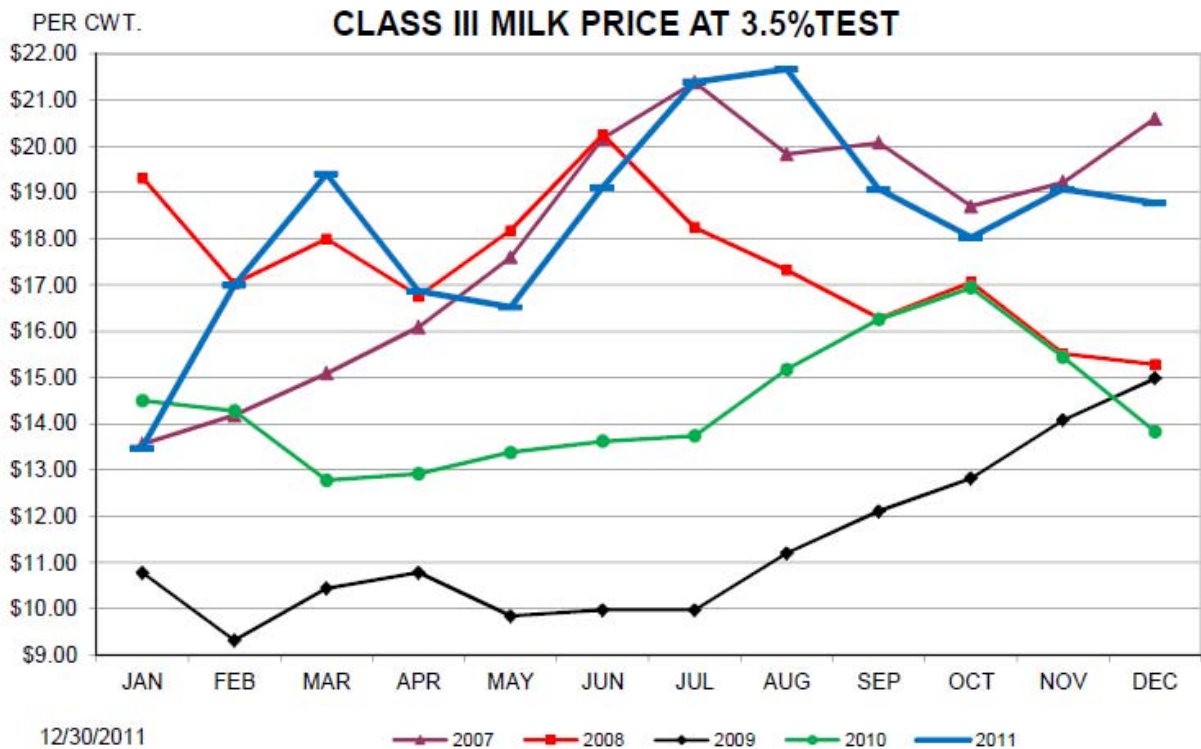
（左） UAE向けに加工されたアルファルファBIGボール（英語とアラビア語で表記）



（右） 中国の国際酪農展示会で出展するサプライヤーの写真
ともに米国サプライヤーにて撮影

米国の乳価動向

6月から3ヶ月連続の値上げで推移してきた米国の乳価（下記グラフ参照：クラスⅢチーズ向け）は、9月に入り値下げに転じ、10月もさらに値下げとなりました。11-12月で少し回復したものの、米国内の景気に影響されて今後も弱含みで推移することが予想されています。飼料コストも高いなか、米国内酪農家は再び厳しい経営を強いられることになりそうです。



北米コンテナ船情勢

WTSA（Westbound Transpacific Stabilization Agreement）加盟の船会社から、2月1日よりGR I（General Rate Increase：基礎レート）値上げの発表がされました。PSWで\$100、PNWで\$200値上げと発表されています。値上げ幅が満額まで至らない船社・航路もあるかもしれませんが、今後の動向には注意が必要です。

前月号でご案内したロサンゼルス港での一部ストライキについては、長期化せずに終了した模様です。大きな影響は無かったものの、PSW、PNWともに、秋以降に各船社で減船やサービスの改変があり、船腹スペースがさらに減っているため、引続き船積み遅延が目立っています。また、太平洋の冬の荒天の影響でコンテナ船が思うように進まなかったことや、産地側でもカリフォルニア州での降雨被害によりプレス作業やコンテナ輸送の遅延が発生したことが、船積み遅延に拍車をかける結果となっています。



カリフォルニア州エルセントロ（インペリアルバレー）サプライヤーでの降雨被害 12/13撮影

ビートパルプ

<米国産>

11年産ビート大根は、冷涼な気候が続いていたため、作付けの進捗が遅れました。作付け後も天候が優れなかったため、10年産よりも20日ほど遅れて収穫が開始されました。その結果、作付面積は前年比で4-5%増加したものの、ビートパルプの生産量は前年比で10%以上も減少すると見込まれています。生産量に相反して需要は引続き堅調なことから、11年産の産地価格は開始と同時に10年産よりも高値で推移しています。

<中国産>

11年産のビートパルプは、10年産よりも作柄が良好と伝えられています。しかしながら、国内需要がさらに増えることが予想されているため、韓国と日本への輸出向けは10年産に引続き、かなり限定的となることが予想されています。

アルファルファ

<ワシントン産>

コロンビアベースンでは、11年産の収穫が終了しています。11年産1番刈も10年産と同様に、雨当たり被害が多く発生する結果となり、続く2番刈でも雨当たり被害が多数発生し、プレミアム品は限定的となりました。1-2番刈の収穫の遅れにより、4番刈が収穫された圃場も少ない結果となりました。全体の生産量が少なかったため、同産地での11年産アルファルファの生産量は15%以上も減少していると予想されています。また、生産効率のためだけではなく、UAEや中国向けの需要も考えてBIGベールでの収穫が増えており、11年産は3タイプのプレミアム品が大きく減少している模様です。BIGベールでの収穫については、12年産以降もますます

す増えることが予想され、今後も日本向けに好まれる3タイのプレミアム品は生産量が減少していく傾向にあると思われます。

<オレゴン産>

産地のクリスマスバレーとクラマスフォールズでは、11年産の収穫が終了しています。米国内酪農家からのハイグレード品の引合いも強く、産地での余剰在庫はほとんどない模様です。同州での11年産アルファルファの生産量は5%程度減少していると予想されています。UAEや中国向けの需要は、他の産地に比べて少ない地域ですが、生産効率を考慮してBIGベールでの収穫が増えており、12年産以降も3タイのプレミアム品の確保が難しくなることが予想されています。

<ネバタ産>

ネバタ州でも、11年産の収穫が終了しています。同州での11年産アルファルファの生産量は前年よりも若干増えていると予想されています。しかしながら、この地域では国内向け（特にカリフォルニア州）の需要が強く、さらに大手サプライヤーもUAEや中国向けに積極的に買付けをしているため、産地価格は引続き堅調に推移しています。

<カリフォルニア産>

インペリアルバレーでは、11年産の収穫がほぼ終了しています。依然としてUAEや中国を中心に輸出向けの引合いが強く、余剰在庫もほとんどないことから、産地価格は堅調に推移しています。

<ユタ産>

ユタ州でも、11年産の収穫が終了しています。同州での11年産アルファルファの生産量は前年よりも若干増えていると予想されています。しかしながら、大手サプライヤーもUAEや中国向けに積極的に買付けをしているため、産地価格は引続き堅調に推移しています。また、近年UAEや中国向けに同州産のアルファルファの出荷が増えてきていることから、積出し港（ロサンゼルス港）へのトラック輸送の確保が難しくなってきており、アルファルファとハイキューブは船積み遅延が多く見受けられるようになっていきます。

チモシー

<米国産>

ワシントン州コロンビアベースンとエレンズバーグでは、11年産の収穫が終了し

ています。荷動きは順調で、1番刈のプレミアム品はほぼ完売状態となっている模様です。2番刈はローグレード品がわずかに残っている模様です。産地価格は強含みで推移しています。

産地では10月上中旬から屋内くん蒸が開始され、費用も発生しています。価格が高くなることから、例年では日本向けの荷動きが落ち着き始める時期ですが、豪州産11年産オーツハイの状況から、代替として米国産チモシーの需要が増える可能性も出てきています。サプライヤーによっては日本だけではなく、クレイングラスやバミューダの余剰在庫がないため、韓国や台湾の顧客からも豪州産オーツハイの代替として引合いが強まっているようです。

<カナダ産>

レスブリッジ（南アルバータ）、ドライランド（中央アルバータ）ともに、収穫が終了しています。荷動きは順調で、余剰在庫もほとんどない模様です。米国産と同様に豪州産11年産オーツハイの状況から、代替としてカナダ産チモシーの需要が増える可能性も出てきています。安定した輸出向けと国内向け（主に馬向け）の需要から、時期尚早ながら、12年産の作付面積は増えることが一部では予想されています。

スーダングラス

<インペリアルバレー産>

産地では収穫が終了しています。11年産のハイグレード品は荷動きも順調で、引続き高値で推移しています。一方で、11年産は早播きの2番刈と遅播きが多く、中間グレード・ローグレード品の発生量が需要よりも多くなることが当初予想されていましたが、テキサス州やニューメキシコ州での早魃による影響もあり、国内の肥育農家や酪農家からの引合いが強くなり、これらのグレードについても余剰在庫はほとんどない模様です。今後は、豪州産11年産オーツハイの輸出可能なローグレード品がどれほど出てくるかで、スーダングラスの中間グレード・ローグレード品の需給が変化する可能性もありますが、追加買付けは厳しい状況となっています。

産地では小麦の作付けが始まりました。12/15時点でのエーカーレージレポートによると、作付面積は前年対比147%の47,492エーカーとなっています。小麦の作付面積が増えるときはスーダングラスから小麦へ転作するケースが多いと考えられ、その場合は早播きスーダングラス＝ハイグレード品の供給数量が減少し、価格は強含みに推移する傾向が例年みられます。また豪州産オーツハイの情勢から、12年産は強い引合いで開始すると予想されるので、今後の産地の作付け動向については注意が必要です。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

産地では収穫が終了しています。他の禾本科の乾牧草よりも比較的安い価格帯となっているクレイングラスへの引合いは依然として強く、余剰在庫はほとんどない状況となっています。そのため、産地価格は強含みで推移しています。今後は、豪州産11年産オーツヘイの輸出可能なローグレード品がどれほど出てくるかで、クレイングラスの需給が変化する可能性もありますが、追加買付けは厳しい状況となっています。

安定した韓国と日本への需要から、時期尚早ながら、12年産の作付面積は増えることが予想されています。インペリアルバレーの12/15時点でのエーカーレージレポートによると、前年対比108%の14,319エーカーとなっています。

バミューダ

産地では収穫が終了しています。バミューダヘイは国内酪農家と馬向けに、またバミューダストローは国内酪農家向けからも強い引合いがあるため、輸出向け供給量は減少し、産地での余剰在庫はほとんどない模様です。そのため、産地価格は強含みで推移しています。12年産は11年産の繰越在庫がない状況下でスタートする見込みのため、今後も引続きタイトな状況が続くと予想されます。

ストロー類

8月中旬から収穫が始まったライグラス（ペレニアル種）については、雨当たり被害を免れましたが、フェスキューは、7月中旬に降った大雨の影響により、雨当たり被害が多く発生しました。韓国からの引合いもさらに強まっているため、産地価格は強含みで推移しています。11年産のフェスキューは、良品の確保が難しいため、サプライヤーによっては雨当たり品も、ノーレイン品よりも多少安い価格で船積みをしている模様です。

豪州産オーツヘイ

＜西豪州＞

10月から12月にかけて断続的に強めの雨が続いたため、雨当たり被害が大量に発生しており、深刻な事態となっています。雨当たりを免れたノーレイン品はごくわずかで、その中でも分析値の良いハイグレード品については、かなり限定的な数量となっています。輸出向けに適さないほど品質が劣化しているため、そのまま圃場で肥料としてすき込まれるか、焼却されるオーツヘイが多い見込みです。昨年と同様の状況となつてしまいましたが、もともと降雨量が少ない西豪州では珍しい作柄の年となつてしまいました。旱魃の影響で生産量が減少する一方で品質は雨にも当たらずハイグレード品ばかりだった10年産とは、全く違った状況とな

っています。西豪州から約40万トン輸出される見込みだった11年産の輸出向け数量は、半分以下となることが懸念されています。

早魃の影響で極端に収量が少なかった10年産に続き、11年産は雨当たり被害により輸出向けオーツヘイを生産さえできない圃場も多く、生産農家は厳しい経営を強いられています。安定した収入が見込める穀類への転作が多いと予想されるため、また銀行も生産農家に対して積極的に転作を勧めることが予想されるため、12年産の作付面積は大きく減少することが早くも懸念されています。

<南豪州>

南豪州でも10月から12月にかけて降雨が続いたため、雨当たり被害が多く発生しました。西豪州ほど酷くはない作柄・状況ですが、雨当たりを免れたノーレイン品は少なく、その中でもハイグレード品については、限定的な数量となっています。

アジア地域からの輸入貨物の減少から、フリーマントル港（西豪州）やメルボルン港（ヴィクトリア州）と比べて、アデレード港（南豪州）出しの船積みスペースのタイト感は顕著で、恒常化しているのが現状です。11年産は西豪州からの船積み南豪州に多くシフトすると見込まれるため、不安定なデリバリーには注意が必要です。

<東豪州（ヴィクトリア州）>

西豪州、南豪州よりも収穫が遅く、両産地の状況から東豪州（ヴィクトリア州）産への期待も高まっていたが、10月から12月にかけて降雨が続いたため、ここでも雨当たり被害が多く発生しました。雨当たりを免れたノーレイン品は少なく、その中でもハイグレード品については、限定的な数量となっています。

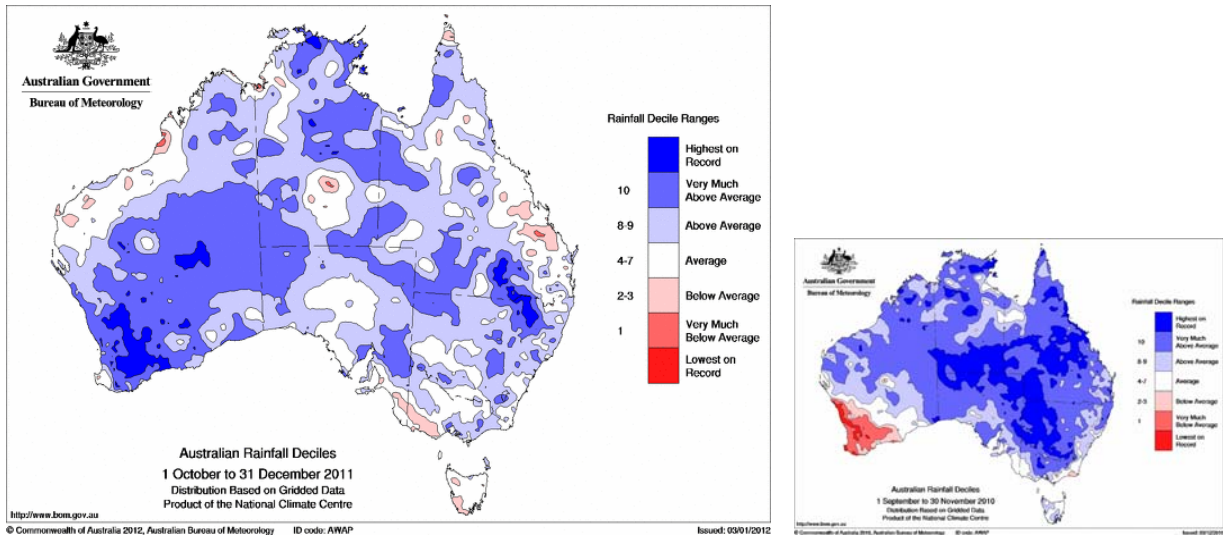


東豪州産オーツヘイ ノーレイン品スタック（左） 雨当たり品スタック（右） ともに12/10撮影

11年産オーツヘイは、どの産地でも雨当たり被害が発生しました。輸出向けオーツヘイは、西25-40万トン、南25-30万トン、東5-15万トンと、例年の

実績から考えられていますが、4-5割を占める西豪州での酷い雨当たり被害は、大きなインパクトがあります。豪州産オーツハイの輸出25年の歴史のなかで、最も作柄が酷い年となってしまいました。

11年産の産地価格については、数少ないノーレイン品に需要が集中していることから、米国ドル基準で「史上最高値」だった10年産よりもさらに値上がりし、高騰しています。ハイグレード品が限定的なため、中間グレード品や雨当たりのローグレード品の引合いも強くなってきているため、どのグレードも値上がりしているのが現状です。



左：豪州 2011/10/1-12/31を対象に平均降雨量と比較した図

右：豪州 2010/9/1-11/30を対象に平均降雨量と比較した図

西豪州主産地の降雨量は、観測史上最も少ないかあるいは平均よりとても少なく、赤く染められていた昨年（右）と異なり、今年（左）は観測史上最も多いかあるいは平均よりとても多く、青く染められている。

以上